

箱根組ニュース

第375号 2024年 8月号

編集発行人 戸丸悟

箱根組は自然を大切にします！
各自保険に入って山に登りましょう！

北岳に三泊四日で挑んだ3人は、自然の素晴らしさと自然の厳しさを身をもって体験する。

7月22日（月）、新宿駅7時発のあずさ1号松本行きに乗り込んだのは佐藤、戸丸の2名。甲府駅に8時27分着。

改札を出ると甲府に前泊の大阪からの三上と合流。再会を喜び合う。

ニュースを見ると2019年以来5年ぶりの北岳ということになった。

南口駅前のバス停で9時5分発広河原行に乗車。月曜日ということではそれほど人数はいないが、それでも2台に分乗して出発する。バスは甲府市内を抜け、山間部に入ると狭いトンネルをいくつも抜けていく。

11時前、広河原に到着。標高は1529m。5年前と違うのは、広河原山荘がバス停横に新築されていたこと、そしてチケット売り場の建物の2階が登山届の提出などの受付になり、休憩スペースにはテーブルと椅子がいくつもあり便利になっている。そこで持参の昼食タイム。

12時、出発。揺れる吊り橋を渡って山に入ってゆく。先頭を戸丸、佐藤、三上と入れ替わりながら、2236mの初日の宿の白根御池小屋を目指す。途中から等高線が狭くなり、岩と木の根、そして階段もある歩きにくい道でかなり険しい。

午後3時、左に道が曲がり平坦になるところで長めの休憩。

3時40分、白根御池小屋に到着。時間も早いので宿の前のベンチで生ビール、しかも二杯目も。夕食時間まで部屋で休んでいると、どうやら激しい夕立のようだ。食堂からは雨上がりに大きな虹が出てみんな窓に寄って眺めていたが、外に出てみると二連の虹が出ていた。

7月23日（火）、二日目は草すべりから肩の小屋、北岳山頂経由で北岳山荘までの行程だ。山頂までの標高差は957m。山頂までは約4時間の行程だ。佐藤さん先頭で出発。池の横右側から草すべりルートに入ってゆく。緑の中を進んでゆく。空は濃い青だ。マルバダケブキの背の高い黄色い花がきれいだ。振り返れば白っぽい尾根の鳳凰三山が相對している。先ほどから鳥の音が「ギャー、ギャー」と聞こえるとは思っていたが、どうやらここを縄張りしている「ホシガラス」のようだ。体調は30センチほど、目の前、2〜3mほどの枝にとまってこちらに向かって鳴いている。この辺りの鳥は、雷鳥もイワヒバリもそれほど人を恐れてい



る風はなくそれが何となくうれしい。
ダケカンバと下草の緑の美しい林の中の
急な登山道は、岩と木の根がまるで人間を
拒んでいるようだ。日差しがこぼれてなお
さら緑が美しい。

8時過ぎ、森林限界を超えたようだ。視界
が開けて北岳の山頂方向がよく見える。大
きな雪渓も眼下に見える。

9時頃、大樺沢方面二股からの合流点に
到着。この辺りはお花畑だ。しばらくすると
富士山が後方に少しずつ山頂を見せる。

9時50分、小太郎尾根分岐で休憩。甲斐
駒、仙丈ヶ岳が北方向に雄姿を見せる。仙丈
ヶ岳の山容の大きさは圧倒させるものがある。
肩ノ小屋も見え、その先には北岳山頂付

近が見えている。先の岩のちよつとした難
所を超えて進むが見た目ほど大変ではない。
10時42分、肩ノ小屋着。山小屋は全く

新しくなっていて驚いた。「北岳にきただけ」
という吹き出しの形の小看板が可愛い。小
屋前のテーブルで富士を見ながら昼食。横

収支
繰越 17895 円

支出
ニュース/HP 作成 500 円
当日プリント代 30 円
現在高 17365 円

にいた若い女性二人。テント泊のよ
うだがテーブルの上にはケーキの様な
ものにロースク? 「お祝いですか?」
と聞くと、お一人
が誕生日とのこと
で、我々3人でハ
ッピーバースデーを
歌うととても喜ん

でくれた。翌日もこの二人とは
何度もすれ違った。

青空の下、景色を見ながら山
頂を目指す。

12時40分、北岳(319
3m)に到着。少しゆつくりと
山頂を楽しむ。

1時7分、下山して北岳山荘
を目指す。足元の高山植物が可
愛い。尾根道が続いているのが
よく見える。絶景だ。鞍部の山
荘、その先の間ノ岳、それに続
く峰々。急な下りは足元注意
だ。

1時38分、吊り尾根分岐、
八本歯のコルは左側だ。降りて
行けば雪渓方面。

2時45分、北岳山荘着。荷
物を部屋に置いて、南側の富士
の見えるベンチで生ビールだ
が、少し寒かった。日当たりの
いい玄関前に移動して、二人は
熱燗(お替りも)、戸丸はブドウ
のスパークリングワイン。夕食
まで部屋で休憩。夕食後はあつ
という間に熟睡。

7月24日(水)、三日目は間
ノ岳ピストンだが、天候は最悪。
ガスと強風だ。

サブザックにお弁当と水、カ
ップなどを入れて、先頭戸丸で

8月18日(日) 大多摩ウォーキングトレイルの白丸駅
から鳩ノ巣駅を歩きます。

らくだコース 歩行約一時間半

白丸駅から多摩川沿いの道を歩き。白丸ダムの見学を
します。(この時少し階段があります) 見学後、また多摩
川沿いの道で鳩ノ巣溪谷に向かいます。鳩ノ巣溪谷で昼
食です。

※何か汁物を作ります。(食器お待ちください)

○持ち物 お弁当、ポットにお湯、食器、箸、カッ
プ、飲料水(少し多めに)、非常食、傘、雨具、着替
え、タオル、筆記用具、救急薬品、(痛み止めスプレ
ーなど)、健康保険証、ビニール袋、ティッシュペー
パー、他

●締め切りは8月16日(金)

集合 8月18日(日) JR 新宿駅
7:44 発 ホリデー快速青梅行き
(11番線 前から3両目)

途中駅発
中野 7:49 三鷹 7:58 国分寺 8:05
立川 8:12 西立川 8:16

青梅 8:42 着(乗り換え) 8:55 発
奥多摩行き 白丸 9:40 着

交通費 新宿～白丸 片道 1,110 円

●お申し込み・お問い合わせ

Tel・Fax/ 03-3521-6898 戸丸

戸丸携帯 090-4541-7066

携帯メール: satorutomaru@gmail.com

メール: tomarusatoru@hotmail.com

箱根組ホームページ

https://tomarusatoru.wixsite.com/hakonegum



6時半頃出発。とにかく風が強く吹き飛ばされそうだが、この日の午後1時半頃に中白根山付近で遭難者が出て翌日救助されたが死亡したようだ。我々も多分すれ違っている方だ。

台風並みの風が来ると足を止めストックで体を安定させて、収まるとまた歩き出す。これの繰り返しで進む。

8時50分。間ノ岳到着。ガスで何も見えないが、丁度到着した女性と写真を取り合う。この方ともまた何度も会い、肩ノ小屋でも一緒だった。風のない岩陰で少し休憩。

すぐに下山。同じように慎重に休みながら山荘に向かう。途中からはアラレ交じりの冷たい強い雨になったが、合羽を着ていあので体温低下を防いだようだ。

山荘の中で合羽を脱いで食堂でホットコーヒーを飲みながらお弁当を食べる。山小屋は人の命を守ってくれる大切な場所だ。少しゆつくり休憩する。

昼食後、先頭を佐藤に代わって再出発。雨は収まっていたが、ガスと強風は相変わらずだ。濡れた合羽を乾かしながら進もうと着て歩いたのは正解だった。乾くし、体温低下も防げた。風は午前中よりもすごかった。計測は出来ないが、30mから一時は50mではないかと思われる強風を耐えながら休みながら進んだ。

北岳に登り返しているのだが強風に気を取られているせいかな急な坂を感じる暇はなかった。

2時30分、北岳山頂着。なぜか風があまりない。しかし周りはガスだ。

3時半頃だろうが、何とか無事に肩ノ小屋に到着。着替えて荷物の整理などをして、さて生ビールということになった。小屋の方に別棟のスペースを教えてくださいましてそこで今日の冒険の話に花が咲いた。でも寒いので、部屋

に戻る。

夕食、豚肉の陶板焼きのようなものが出て驚いた。美味しかったし、まるで旅館のように固形燃料に火が入り熱々でご飯も進んだ。

夜中に外のトイレに行こうと思ったが寒そうなので、Tシャツに長袖、ダウン、ウレーカーを着て出た。



風が吹いていて、星は見えず、すぐに戻って布団に入った。

7月25日(木)、四日目は肩ノ小屋からの下山だ。広河原12時のバスにできれば乗りたいので頑張った。

6時半頃出発。先頭戸丸。風は弱まっていたがガスで景色は見えない。弱まっているとはいえそれなりの風だが、昨日の強風を考えると「まるでそよ風だね」と言いながら下る。

小太郎尾根分岐を過ぎ、尾根の東側に下ると風は無くなった。天候も回復に向かっていくようだ。花畑の花も明るく見える。ここにかわいいのは黄色いヒマワリを小さくしたようなウサギギク。ダケカンバの林の



中のマルバダケブキの群生は上から見るとまたいい眺めだ。

明るくなつてきて鳳凰三山もきれいに见えてきた。ギヤーギヤーと月曜日に姿を見せたホシガラスがまた鳴いている。急な道を慎重

に下る。ダケカンバの林を抜けると白根御池が眼下に見える。

8時40

分、白根御池小屋に到着。小休止。

先頭を佐藤に代わって再出発。9時5分、沢を渡る。ひたすら歩きにくい下り坂を下る。

10時56分、通行止めになつて



いる大樺沢ルートとの分岐に到着。小休止。

11時19

分、吊り橋を渡ると広河原バス停に無事到着。

急いでお弁当を食べて、12時のバスに乗車。4日間の疲れもあつてか。バスの揺れが心地よく、夢見心地で甲府駅に2時前に到着。

さあ、待望の温泉銭湯だ。北口のタクシー乗り場でタクシーに乗ると「菊ノ湯温泉ですか?」と言われた。登山客はよく利用するようだ。

温泉は使っているが普通の銭湯で番台にはおばさんが座っていた。石鹸とカミソリを買って入浴。こちらが片付けていると佐藤さんはいち早くお風呂に向かった。

ジェットバスと源泉の冷たいお風呂とそれを沸かしたお風呂などがある。一番奥にはサウナ。75度だが熱く感じた。サウナに2度ほど入りまた冷たい源泉に入る。湯上りはコーヒール牛乳とフルーツ牛乳は定番。やはりビールが恋しくてタクシーを呼んでもらう。

北口のほうとうのお店「小作」に入る。生



ビールで乾杯。以前、ほうとうを一人4頼むと量が多くて他の物が頼めなかったの、一つ頼んで取り分ける作戦にした。これが大成功。馬のもつ煮や枝豆なども美味しかった。仕上げにカボチャのほうとうも頼んだがやはり美味しかった。白ワインボトル一本、赤ワインもボトル一本。これも美味しかった。

時間もたつぷりあったので話も色々弾んだ。中心はやはり三日目の風雨の冒険話だ。2時間以上もいただろうか。

6時頃、駅に向かう。少し早く出る三上さんを身延線のホームまで送り、ついでに珍しい特急車両に乗り込んで少し余韻を楽しむ。

佐藤、戸丸は7時過ぎの特急だったので、またまた佐藤さんが買ってくれたお酒とつまみを頂いて車内で二次会。

10時頃に帰宅。三上さんは深夜12時半頃に大阪の自宅に到着とのこと。

波乱万丈の4日間が終わりました。

